

目 次

4 風速	3
3 湿度	2
2 降雨量	1
1 気温	1
雨度	2
度速	3
10	10

第一編 自然環境	史
第一章 自然	始
第一節 位置・面積	三
第二節 地形・地質	三
1 地形	五
2 地質	三
第三節 氣象・気候	六
1 気温	七
2 降雨量	七
3 湿度	七
度速	一〇
11	11

目 次

発刊のことば
よろこびのことば

弓削町議会議長 島根 龜夫

凡 例

第二章 災害	一〇
1 大暴風雨・台風	一三
2 地震	一三
3 火災	一七
4 旱魃・飢饉	一八
5 公害	一八
第三章 動物・植物	一一
1 魚貝類	一一
2 漁業関係古跡	一一
3 鳥獸類	一三
4 植物類	一三

第二編 歴 史

第一章 原始	二七
第一節 島のはじめから無土器時代	一七
第二節 縄文時代	一〇
第三節 弥生時代	一一

第四節 古墳時代	三四	1 概 説	一〇一
第二章 弓削の地名	三九	2 藤原佐理郷漂着の浜	一〇五
第一節 弓削道鏡説	三九	3 源平合戦のひとこま	一〇六
第二節 尾削玄賀説	四三	第三節 鎌倉時代	一〇九
第三編 弓削部説	四四	第四節 南北朝時代	一一二
第三章 弓削島莊	四八	第五節 室町時代	一一四
第一節 莊の成立とその後	四八	第六節 応仁の乱から戦国時代	一一五
第二節 莊の「名」制	五五	第七節 移住武士	一―九
第三節 領主の推移	六二		
第四節 檢地と年貢所當	七〇		
1 檢 地	七〇	1 字多明利	一―九
2 年 貢 所 当	七四	2 太田義光	一―三
第五節 支配者と農民	九〇	3 牛淵孝義	一二四
第六節 莊園の解体	九二	4 菅又左衛門	一二七
第四章 奈良時代以降	九七	第五章 江戸時代	一三〇
第一節 奈良時代	九七	第一節 江戸幕府開設と今治藩	一三〇
第二節 平安時代	一〇一	第二節 土地制度	一三一
第三節 檢地と年貢	一三三		
1 檢 地	一三三		
2 年 貢	一四八		
第六章 幕末から御維新へ	二一五		
第三編 行 財 政			
第一章 地方自治制度の発展	二二一		
第一節 維新前後	二二一		
第二節 県の統廃合	二二三		
第三節 大小区制	二二四		
第四節 県 会	二二七		
第五節 町 村 会	二三〇		
第一節 享保の大飢饉	一八五		
第一節 戸 代	一八二		
第一節 享保の大飢饉	一八五		
第二節 近島流罪人のこと	一八七		
第三節 雨乞踊	一八九		
第四節 武川家	一九三		
第五節 エビス屋	一九六		
第六節 通航記	一九九		
1 琉球人帰朝之節聞合日記	一九九		

第六節 戸籍	1三一	2 町村制下の議会	三〇八
第七節 地租改正	一一三	3 地方自治法下の議会	三一二
第八節 市制及び町村制	一三九	第八節 弓削村議会	三一六
第九節 村政から町政へ	一四三	第九節 農業委員会	三二八
第一〇節 組換出願と魚島村分村	一四八	第一〇節 選挙管理委員会の委員	三四八
第一一節 地方事務所	一五三	第一一節 監査委員	三五一
第一二節 町制施行	一五四	第一二節 固定資産評価員並びに固定資産評	
第一三節 町村合併促進	一五七	価審査委員	三五三
第二章 行政機構	一六四	第一三節 部落長制度	三五五
第一節 人口	一六四	第三章 財政	三六三
第二節 國勢調査	一七〇	第四章 福祉	三八一
第三節 生活環境	一七四	第一節 沿革	三八一
第四節 事務分掌	一七六	第二節 生活保護	三八四
第五節 庁舎	一八四	第三節 児童福祉	三八七
第六節 町村政参画者	一九四	1 保育所	三八七
第七節 町村議会制度	二〇六	第四節 母子福祉	三九二
1 町村議会制度の創設時代	二〇六	第五節 国民年金	三九三
第六節 老人福祉	三九五	第一一節 健康増進対策	四三八
第七節 身体障害者福祉	三九八	第一二節 簡易上水道	四四一
第八節 戦没者遺族援護	四〇一	第一三節 上島上水道企業団	四四八
第九節 弓削町社会福祉協議会	四〇二	第六章 建設事業	四五九
第一〇節 共同募金	四〇三	第一節 概説	四五九
第一一節 ライオンズクラブ	四〇四	第二節 失業対策事業	四六〇
第五章 保健衛生	四〇六	第三節 土地造成	四六三
第一節 伝染病	四〇六	第四節 公営住宅	四六七
第二節 医療機関	四一〇	第五節 道路	四七〇
第三節 環境衛生	四一三	1 概要	四七〇
第四節 塗芥処理	四五	2 道路法公布	四七一
第五節 し尿処理	四一九	3 道路法公布以前	四七二
第六節 隔離病舎	四二一	4 道路法公布以後	四七七
第七節 上島地区衛生事務組合	四二五	第六節 港湾	四九〇
第八節 火葬場	四二七	1 概要	四九〇
第九節 国民健康保険	四三一	2 災害復旧事業	四九一
第一〇節 国民健康保険運営協議会	四三七	3 現況	四九二
第七章 治安・兵事	五〇五		

第一節 警 察	五〇五
第二節 消 防	五一八
第三節 兵 事	五三四
1 徵兵制度	五四四
2 徵兵検査	五三五
在郷軍人分会	五三六
簡閱点呼	五三八
軍事援護団体	五三九
戰 爭	五四〇
第八章 選 挙	五五九
第一節 選挙制度の変遷	五五九
第二節 各種選挙の実態	五六三
第三節 選挙管理委員会	五七〇
第四編 産 業	五八二
第一章 古代の産業	五七五
第一節 島の開発者	五七五
第二節 弓削部の支配	五七五
第三節 下地中分実施状況	五九五
第五節 年貢塩等送文	六〇七
第六節 兵庫北關入船納帳	六〇九
第三章 近世の産業	六一六
第一節 序	六一六
第二節 檢 地	六一六
1 太閤檢地	六一六
2 徳川檢地	六一八
3 今治藩の檢地	六一九
第三節 年 貢	六二六
1 物 成	六二六
2 小 物 成	六二九
第四節 新田畠の開発	六三二
第五節 囚作・飢餓と甘露	六三四
第六節 その他の産業	六三六
1 製 塩 業	六三六
2 渔 業	六三七
3 石 灰 業	六三九
4 畜 産 業	六三九
5 灰 業	六三九
6 畜 産 業	六三九
第五章 現代の産業	六六九
第一節 農 業	六六九
1 農地改革	六六九
2 弓削町における農地解放状況	六七一
3 開拓事業	六七四
4 柑橘栽培	六八一
5 農業の現況	六八三
6 農具と農用機械	六八六
第二節 畜 産 業	六九二

第一節 警 察	五七六
第二節 莊園の發生	五七七
第五節 弓削島莊の成立	五七七
第六節 塩の生産	五七九
1 土器製塩	五七八
2 塩浜製塩	五八〇
第七節 塩の交易	五八〇
第二章 中世の産業	五八二
第一節 文治の検注	五八二
1 檢田目録	五八二
2 桑検注目録	五八三
3 作畠麦検注取帳目録	五八四
4 作畠検注取帳	五八五
第二節 延応の所當等注文	五八九
第三節 領家と地頭との紛争	五九二
第四節 下地中分の実施	五九二
1 地頭側報告書	五九三
2 領家側報告書	五九四
第七節 田畠面積、人口等	六四〇
第四章 近代の産業	六四四
第一節 地租改正	六四四
第二節 明治時代の産業	六四六
第三節 四阪島製鍊所の煙害と農林業改良奨励基金	六四五
1 煙害問題	六五五
2 農林業改良奨励基金	六五七
第四節 石 灰 業	六六〇

第三節 林業	六九四	人 口	七二六
1 概要	六九四	就業者数	七二六
2 松くい虫対策	六九七	事業別純生産額とその構成	七二九
3 緑化推進運動	七〇一	事業所及び従業者数	七三一
4 造林事業実施状況	七〇一	就業者数と事業所(町内)従業者数との比較	七三四
5 緑化推進運動実施状況	七〇一		
第四節 漁業	七〇三		
1 明治・大正時代の漁業	七〇三	農業協同組合	七三五
2 漁業行政	七〇八	漁業協同組合	七四四
3 戦後の漁業	七一二	商工会	七五五
4 漁業の現況	七一四		
第五節 鉱業	七一〇		
1 石灰業	七一〇	1 郵便	七六二
2 石材業	七一〇	2 町営バス	七六五
第六節 工業	七一一	1 優船期	七六九
第七節 商業	七一三	2 定期船期	七六九
第八節 現代の産業	七一五		
1 概況	七一五	第三節 通信	七八一
第九節 関連団体	七三五	2 放送	七九四
第六章 運輸・通信	七六二		
第一節 陸上交通	七六二		
第二節 海上交通	七六九		
第三節 通信	七八一		
第一節 陸上交通	七六二		
第二節 海上交通	七六九		
第三節 通信	七八一		
第七章 海運と船員	七九七		
第一節 序説	七九七		
第二節 古代史の中の瀬戸内海	七九八		
白村江の戰 水軍 倭寇	七九八		
第三節 古代の陸路と海路	八〇〇		
太政官道と瀬戸内海水路	八〇〇		
第四節 中世莊園時代	八〇一		
1 年貢塩等の海上輸送	八〇二	2 菱垣廻船	八一〇
2 東寺莊園時代の年貢塩運上と梶取	八〇三	3 槍廻船	八一一
3 弘安の役前後の水軍と舸子	八〇五	4 北前船	八一
4 塩の商品化と梶取の專業化	八〇六	5 淀川の三十石舟	八一三
第五節 『兵庫北関入船納帳』	八〇六	6 伊予国西海巡見志	八一四
1 弓削籍船の船頭たち	八〇六	7 中浦(上弓削)の大火と港の盛衰	八一五
2 名主から梶取——船頭へ	八〇九	8 その他	八一六
第六節 江戸時代における廻船の発達と			
1 江戸開府と全国航路の開設	八〇九		
第八節 大正時代	八三〇		
1 因島造船所と弓削の石灰山の活況	八三〇		
2 五平太船・石灰船	八三一		
3 海運業者	八三一		

第三章 社会教育	一〇二二
第一節 社会教育法の公布	一〇二三
社会教育目標	一〇二五
社会教育施設	一〇二七
第二章 昭和時代	八三四
太平洋戦争前—機帆船時代	八三四
太平洋戦争後—フェリーボート時代	八三八
海員数の推移	八四〇
日本船名録に登録された弓削籍船	八四一
第一〇節 結び	八四三
昭和六十年現況	八四三
神社奉納物等に見える船と船員	八四四
明治三十三年の小学校令	八九一
義務教育六年制の実施と就学率	八九二
大正期の教育	八九二
昭和初期の教育	八九四
個性教育と郷土教育	八九四
戦時教育	八九五
戦後の教育	八九六
第二節 学校史	八九八
尋常小学校	八九八
高等小学校	九一
弓削尋常小学校	九一
弓削小学校	九一
佐島小学校	九一
弓削中学校	九三〇
弓削高等学校	九五〇
弓削専門学校	九七七
第三章 神社・寺院	一〇七五
第一節 神社	一〇七五
大森神社	一〇七五
来名戸神社	一〇七六
佐島八幡宮	一〇七七
高浜八幡宮	一〇七八
著神社	一〇八〇

第九節 昭和時代

3 学務委員の復活	八五六
4 学務委員の職務—就学奨励	八五七

第一〇節 結び

1 昭和六十年現況	八四三
2 神社奉納物等に見える船と船員	八四四

第五編 教育

第一章 教育行政

1 学制期	八四九
2 教育令期	八五〇
3 小学校令期	八五一
4 教育委員会制度期	八五一

第二節 弓削の教育行政

1 学区世話掛	八五二
2 学務委員	八五五

第五節 弓削幼稚園

1 教育のはじまり	八七五
2 明治以前の教育(寺子屋)	八七六
3 明治期の寺子屋	八七九
4 学制頒布	八八〇

第六節 弓削公民館

1 弓削町中央公民館	一〇三二
2 公民館活動	一〇三四
3 体育活動	一〇三八
第四節 関連団体	一〇四五
1 青年会	一〇四五
2 婦人会	一〇五七
3 少年団	一〇六六
第五節 同和教育	一〇六七
1 地区別同和教育懇談会の開催	一〇七一
2 同和教育の推進	一〇七二

第二章 学校教育

1 教育委員会法公布	八五八
2 公選制の教育委員会	八五九
3 任命制の教育委員会	八六一
4 学務委員の職務—就学奨励	八五七
1 教育委員会法公布	八六八
2 学校給食法公布以前	八六九
3 弓削町学校給食センター	八七〇

第三節 弓削町教育委員会

1 教育委員会法公布	八五八
2 公選制の教育委員会	八五九
3 任命制の教育委員会	八六一
4 学務委員の職務—就学奨励	八五七

6	弓削神社	一〇八二
第二節 寺院		一〇八四
1	願成寺	一〇八四
2	西方寺	一〇八七
3	自性寺	一〇九一
4	定光寺	一〇九一
5	惣觀寺	一〇九三
6	潮音寺	一〇九四
7	東泉寺	一〇九六
8	慶雲庵	一〇九八
第三節 教会		一〇九九
1	金光教弓削島教会	一〇九九
2	天理教下弓削分教会	一一〇〇
3	天理教山弓分教会	一一〇一
4	その他	一一〇二
第七編 民俗		
第一章 序		一一〇五
第二章 衣食住		一一〇六
第一節 衣		一一〇六
8 もば番	一一二七	
第四章 風俗		一一二九
第一節 名字		一二二九
1 町民の名字	一二二九	
2 名字の散在についての近隣町村との比較	一二三一	
3 自性寺教会結社帳	一二三二	
4 惣觀寺教会結社帳	一二三三	
第二節 天候の俚言	一二三四	
第三節 その他の風俗	一二三五	
1 やいと	一二三五	
2 しおくみ	一二三六	
3 かげぜん	一二三六	
4 つるばまの石	一二三七	
第五章 民間信仰	一二三七	
第一節 講	一二三八	
1 自性寺観音講	一二三九	
2 石槌講	一二四〇	
第二節 共同祈願	一一四六	
1 百万遍	一一四六	
2 千願心経	一一四六	
3 お念佛	一一四七	
第三節 靈場	一一四九	
1 弓削島四国八十八ヶ所靈場	一一四五	
2 弓削島西国三十三所靈場	一一五四	
第六章 民話・伝説	一一五八	
第一節 人物	一一五八	
1 弓削道鏡法皇禪師	一一五八	
2 宇田源次兵衛	一一六二	
3 太田義光	一一六三	
4 大盃浅次郎と五郎八のかめ	一一六四	
第二節 地名	一一六五	
1 百貫島	一一六五	
2 藤原佐理郷漂着の浜	一一六七	
3 願文ノ岩と経ノ小島	一一六八	
4 白椿とひき臼	一一六九	
5 勘考岩	一一七〇	

6	弓削神社	一一〇七
第二節 食		一一〇八
1 麦めし	一一〇九	
2 芋めし	一一〇九	
3 かんころめし	一一〇九	
4 だんご	一一〇九	
5 かんころだんご	一一〇九	
6 栗・黍	一一〇九	
7 にんじんぼし	一一〇九	
8 いざすどうぶ	一一〇九	
9 味噌・醤油	一一〇九	
第三節 住		一一一〇
1 覚	一一一〇	
2 農家の間取り	一一一〇	
3 引野規約帳	一一一〇	
4 ムラ井戸	一一一〇	
5 ふしん	一一一〇	
6 こうろく	一一一〇	
7 やま日	一一一〇	
第三章 共同生活		一一一五
1 覚	一一一五	
2 農家の間取り	一一一五	
3 引野規約帳	一一一五	
4 ムラ井戸	一一一五	
5 ふしん	一一一五	
6 こうろく	一一一五	
7 やま日	一一一五	

第三節 植物	一七
1 聖松	一七
2 でんの一本松	一七二
第四節 動物	一七四
1 うわ池の大蛇	一七四
2 えんこ(その一)	一七五
3 えんこ(その二)	一七五
第五節 信仰	一七七
1 六兵衛の蜂焼きと弓削薬師	一七七
2 願成寺の弥陀三尊	一七八
3 著神社の神様	一七九
4 平畠のお地蔵さん	一八〇
5 馬神さん	一八〇
6 帰って来た観音様	一八一
7 日切さんの持上地蔵	一八三
8 過去帳焚書綺談	一八五
第七章 方言	一八六
第一節 方言のゆげ	一八六
第二節 方言あれこれ	一八八
第四節 うたとはやし	一九一
第五節 盆踊	一九四
第六節 子供のうた	一九九
第七節 七草うた	二〇〇
第八節 雨乞い踊りうた	一九九
第九節 手まりうた	二〇一
第十節 はねつきうた	二〇〇
第十一節 いんご(おじやみ)うた	二〇〇
第十二節 手まりうた	二〇一

第八編 文化財・文芸・観光

第一章 文化財	一一〇三
第一節 文化財の保護	一一〇三
1 弓削町文化財保護条例	一一〇四
2 文化財調査委員及び文化財保護審議会	一一〇五
第二節 指定文化財	一一三五
1 重要文化財 定光寺観音堂	一二三八
2 愛媛県名勝 法王ヶ原	一二四六
3 愛媛県天然記念物 聖松	一二四九
4 弓削町指定文化財	一二五三
第三節 その他の文化財	一二五三
1 第二節 文芸	一二八一
1 第一節 序	一二八一
2 第二節 文化活動	一二八一
3 短歌	一二八一
4 俳句	一二八一
5 川柳	一二九二
第四節 神社の年中行事	一二一三
1 弓削神社での年中行事	一二一三
2 その他弓削神社神官のつかさどる年中行事	一二一五
第五節 神社の年中行事	一二一三
1 弓削神社での年中行事	一二一四
2 その他弓削神社神官のつかさどる年中行事	一二一五
第六節 寺院の年中行事	一二一四
1 弓削寺での年中行事	一二一四
2 久司浦の年中行事	一二一五
第七節 新しい形の年中行事	一二一五
1 久司浦の年中行事	一二一六
2 その他弓削神社神官のつかさどる年中行事	一二一七
第八節 子供の遊び	一二一三

第一章 うたとはやし	一九一
第一節 祭	一九一
1 弓削神社の祭ばやし	一九一
2 祭うた	一九三
第二節 盆踊	一九四
1 盆踊うた(くどき)	一九四
2 盆踊うた(久司浦)	一九五
第三節 玄の子うた	一九七
第四節 雨乞い踊りうた	一九九
第五節 七草うた	二〇〇
第六節 子供のうた	二〇〇
第七節 はねつきうた	二〇〇
第八節 いんご(おじやみ)うた	二〇〇
第九節 手まりうた	二〇一
第二章 文芸	一二八一
第一節 序	一二八一
第二節 文化活動	一二八一
第三節 その他の文化財	一二八一
1 第二節 文芸	一二八一
1 第一節 序	一二八一
2 第二節 文化活動	一二八一
3 短歌	一二八一
4 俳句	一二八一
5 川柳	一二九二

第一編 自然環境

第三節 弓削町文化協会		一二九三	7 武川幸意	一三五一
1	文化協会設立	一二九三	8 田坂初太郎	一三五二
2	文化協会各部の活動状況	一二九四	9 廣田慈教	一三五七
第四節 来遊文人		一二九八	10 小林善四郎	一三五九
1	俳人	一二九八	11 濱根岸太郎	一三六〇
2	歌人	一二九八		
第三章 観光		一三〇一		
		一三〇五		
1	水車ルート	一三〇五		
2	弓削町観光協会	一三〇七		
3	観光司前町	一三一		
4	浩宮徳仁親王殿下の弓削町御見学コース	一三一一		
5	国民宿舎 ゆげロッジ	一三一五		
弓削町年表		一三六五		
			あとがき	
			弓削町誌編集委員	

第九編 人物

1	田頭淨貞	一三一九
2	庄右衛門	一三三〇
3	村井嘉平太	一三四二
4	田頭城繁	一三四五
5	越智通貫	一三四七
6	原太岳	一三四八